

東日本大震災緊急・復興支援における FIDR の方針

FIDR の基本姿勢

FIDR は東日本大震災の緊急・復興支援において以下の姿勢で取り組んでいます。

- ニーズへの即応** 現場の状況が次々と移り変わり行く中、FIDR は被災された方々の目線で、本当に必要とされていることを見極め、必要とする方々へ迅速かつ公平に支援することを目指しています。
- 支援者との協働** FIDR は被災地を支援するためにお寄せいただく企業や個人の皆さまからの資金、知恵、技術、想いを大切に預かり、現地での活動に有効に活かしています。協力くださる皆さまが、FIDR と一体となって被災地への支援に関わっていることを示すよう、報告や情報の発信に努めています。
- 行政との連携** 住民の福祉に関連する公共事業の領域は行政との共同歩調をとることが不可欠です。被災地の緊急・復興のプロセスが遅滞、混乱なく進展するよう、行政が担える部分を最大限に後押ししつつ、FIDR は柔軟かつきめ細やかな活動で行政の手が届きにくい業務にも対応してまいります。

復興支援のビジョン

これからの復興過程においては、被災前にあった町の機能やコミュニティの紐帯を一日も早く回復し、子どもたちが災害を乗り越えて健やかな成長が約束される社会を形成することが大切と考えます。そこで FIDR は復興支援のビジョンを次の 3 つの座標軸で構想しています。

- 守る** FIDR は被災地の方々の命と暮らしを守ることを重んじます。高齢者や年少者、障がい者を含む誰もが日々の生活にかかわる不便を減じ、安心して暮らせる地域が構築されることを目指します。
- 活力** これからの回復過程そのものが、かねて三陸地方を覆っていた構造的な停滞からの脱却につながるよう地域の活力を高めます。被災地の住民と共に考え、地場の豊かなリソースを活用して、持続的な社会の興隆が培われるよう、人的、組織的な能力の育成を支えていくよう努めます。
- 備え** 将来起こりうる災害に対する備えを構築することが、FIDR は復興支援で忘るべからざる要素と考えます。自然災害（Hazard）そのものは避けようがありませんが、そこから生じる惨事（Disaster）は過去の教訓を踏まえて防ぐことができます。

これからの FIDR の役割

東日本大震災復興支援に関わる FIDR のこれからの役割は、震災被害からの回復を早め、地域の発展をゆるぎないものにするために、2011 年 11 月に岩手県山田町に開設した事務所を前線拠点として、的確なニーズの把握と迅速な対応にあたりつつ、被災地に暮らす方々、現地の行政機関、協力してくださる企業・個人・団体の力をつないでまいります。

被災地の各自治体が策定した復興基本計画では、遂行に 10 年にわたる時間が想定されています。FIDR はその実現を確実に促進するために、2012 年 3 月までを回復支援期、同年 4 月から 2014 年 3 月までを復興支援期と捉えて次の 4 つのテーマに基づいた活動を実施いたします。

- 子どもの笑顔を取り戻す** 被災地においても子どもたちにとって「学ぶ」「遊ぶ」というあたりまえの日常が約束され、のびのびと成長することができるための環境を整えます。
- 地域の命と暮らしを支える** 多くの困難を伴う仮設住宅での生活を乗り越え、被災地の方々が健康を維持し、新たな暮らしを確立できるよう、コミュニティの支え合いの力を強めるための支援と、日常生活における不便や不安を解消するための支援を行います。
- 地域の雇用と産業を育てる** 復興に向けて被災地の方々の就業と地場経済の活性化を重要課題として捉え、現地自治体や企業、団体と協働し地域のリソースを活かした方策を追求します。
- 将来の災害に備える** 被災地の復興支援の経験が後世の災害への対策にもつながるよう、学びを蓄積し教訓を伝えるための支援を進めてまいります。

なお、移り変わりゆく現地の状況を的確に捉えて支援を実施していくため、上記の活動予定に変更が生じる可能性があります。

FIDR の支援展開

年	2011				2012				2013				2014	
月	3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4~
フェーズ	緊急支援		回復支援		復興支援（第 1 期）				復興支援（第 2 期）					
生活を立て直す	避難所への物品支援		被災者用住宅への物品支援											
子どもの笑顔を取り戻す			仮設保育園舎設置 リース											
			中高部活支援（1）		中高部活支援（2）									
			中高ボランティア支援											
			大槌町給食費保育料等支援											
地域の命と暮らしを支える			コミュニティ再構築支援（自治会形成支援）											
			生活のちから強化（無料バス・移動販売車）											
			安全の確保（バス待合所、ソーラーライト、簡易消火栓等）											
雇用と産業を育てる					調査									
						雇用創出・産業育成支援								
災害に備える				保育所・幼稚園 防災用具支援										
						将来の災害に備えるための支援（詳細未定）								

FIDR は復興支援活動を 2013 年度まで実施することを予定しています。2014 年度以降は状況の判断により活動を継続する可能性もあります。

今後の支援対象地

山田町および大槌町を中心に、岩手県沿岸地域に対応します。一部の活動は宮城県、福島県においても実施します。

今後の活動分野

- 子どもの笑顔を取り戻す支援
 - 仮設保育園設置：2 か所のリース料支援（宮古市・岩泉町/2013 年 12 月まで）
 - 中高生部活動支援（対象：岩手県 7 市町および宮城県 5 市町の被災中学校・高等学校）
 - 中高生ボランティア支援（対象：岩手・宮城・福島 3 県の全中学校・高等学校）
 - 子どもの給食費・保育料等支援（大槌町/2011 年度のみ）
- 地域の命と暮らしを支える支援
 - コミュニティ再構築：自治会形成支援（山田町・大槌町）
 - 生活のちから強化：無料バス運行（山田町）・移動販売支援（大槌町）・買い物支援（山田町）
 - 日常生活での安全の確保：バス待合所・ソーラーライト設置（山田町）・簡易消火栓設置（山田町）
- 地域の雇用と産業を育てる支援
 - 産業育成（詳細未定）
- 将来の災害に備えるための支援
 - 災害の経験を伝える活動（未定）
 - 防災用具：保育園・幼稚園（宮古市/2011 年度）

活動計画が未定のものは、2012 年 3 月時点で調査・立案中です。確定次第ご通知いたします。